

Title: 「ちょっとそこまで。」



山本 友来
静岡のど田舎で生まれ、栃木、新潟、埼玉で人格を形成し、京都で青春を過ごしたのち、中国の武漢という街で修行を積みました。2007年より再び学生に。懲りずにちょっくら出かけてきます。

● 最近のエントリー

- ☒ [旅の準備3 機材編](#)
(2009.09.16)
- ☒ [旅の準備2 衣履編](#)
(2009.09.16)
- ☒ [旅の準備1 バッグ編](#)
(2009.09.15)
- ☒ [フリー期間、終了。179/183](#)
(9月14日)
(2009.09.14)

● アーカイブ

- ☒ [2010年04月](#)
- ☒ [2010年03月](#)
- ☒ [2010年02月](#)
- ☒ [2009年09月](#)
- ☒ [2009年08月](#)
- ☒ [2009年07月](#)
- ☒ [2009年06月](#)
- ☒ [2009年05月](#)
- ☒ [2009年04月](#)
- ☒ [2009年03月](#)

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

- ☒ [Cambodia](#)
- ☒ [China](#)
- ☒ [India](#)
- ☒ [Japan](#)
- ☒ [Malaysia](#)
- ☒ [Nepal](#)
- ☒ [singapore](#)
- ☒ [Thailand](#)
- ☒ [Vietnam](#)
- ☒ [旅の準備](#)

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

ちょっとそこまで。 > 2009年09月 アーカイブ

09.09.16

旅の準備3 機材編

[Tweet](#)
[Check](#)

デジタル班の場合のみですみません。

- メインカメラボディ
- サブカメラボディ
- ズームレンズ
- 単焦点レンズ
- 外付けフラッシュ



- レリーズ
- フィルター
- 予備バッテリー 3個
- 充電器二台分
- メンテナンス用品（クロス、ブロアーなど）
- コンパクトカメラ一式



- ノートPC
- ポータブルHDD4つ
- CFカード8GB4枚+α
- カードリーダー
- USBフラッシュメモリ
- 緊急用DVD-R2枚
- 乾燥剤



これらが全部入り、かつ飛行機の機内持ち込みができるサイズ（一般的には縦、横、幅の合計が11.5センチ以内）のカメラバッグが見つければベストです。
ちなみに私ののはこんなのです。





カバーをかければ汚れ、水滴、盗難防止にも若干効果あり。



PCは空港の手荷物検査の時に取り出せと言われることが多いので、すぐに取り出せるかどうかのポイント。



ほかにも

- 三脚
- レフ版
- レインカバー

などを持って行きましたが、こちらはスーツケースでもOK。



また、途中でHDDの容量が足りなくなりましたので、マレーシアで1TBのHDDを買い足し、バックアップ用として施設に保管しておくようにしました。

撮影時ですが、軽いバッグに飲み物やミニタオル、地図、その他必要な物だけいれて、出来るだけ身軽な格好で出かけるようにしていました。



カテゴリ: [旅の準備](#)

post by 山本 友来 | 日時: 2009.09.16 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[ちょっとそこまで。 > 2009年09月 アーカイブ](#)

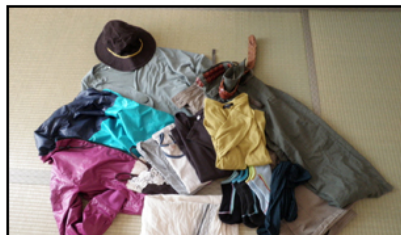
旅の準備 2 衣類編

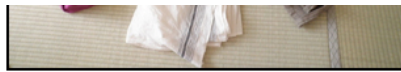
[Tweet](#)

[Check](#)

次は衣類です。
途中で捨てたり買い足したりもしていますが、基本的に以下のような感じです。

私の出発時の衣類



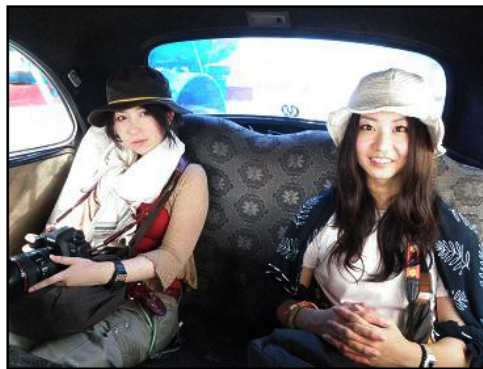


- 薄手のウィンドブレーカー
3月の韓国、ネパールの高地用。重ね着し、それでも寒ければ貼るカイロ。これで摂氏2、3度まで耐えられます。リバーシブルだと内ポケットもついてるので防犯にも便利。
- 帽子
折り畳めるもの、洗えるものがよし。
- 薄手の長袖
必須。ないと移動時のエアコンで風邪引きます。日焼け防止にも。
- パンツ2本。
ポケットが多いと何かと便利。
- タンクトップ、キャミソール等
重ね着で温度調節できるのがいいです。
- 靴下4足
できれば薄くて長さのあるもの。短いと蚊にさされます。穴があかないようにと丈夫なのを持って行ったら、洗濯後なかなか乾かなくて苦労しました。乾きやすさは最重要。穴があいたら買えばいいのです。
- 下着4セット
- 大きめの布



これは便利。もともとは着方いろいろの衣類として売っていたもので、ポンチョやカーディガンやワンピースなど、結び方ひとつで変身するおしゃれな布だったのですが、寒いときはマフラーやショールやブランケットに、日差し強いときは日よけに、不潔なベッドではシーツに、出先で荷物が増えたら風呂敷代わりに、青空トイレでの目隠し用等等、いろいろ使えます。ちなみに、タカハシも同じの柄違いを持っています。

二人の主な使用法例



で、これらを圧縮袋数枚にわけて収納。



基本は少なく。。
コツは基本的なテイストやテーマカラーを決めてしまうことです。組み合わせ次第で何通りにも着こなせますので。私の場合は基本がアースカラーで差し色がイエローかピンクと決めてました。
4日分あればなんとかなります。どうしても足りなくなっても、どこでも安く売ってます。

何度も言いますが、乾きやすさ、超重要です！

09.09.15

旅の準備 1 バッグ編

[Tweet](#)

[Check](#)

釜山に着きました。

さて、一期生山口奈々子先輩、二期生藤森恵先輩+佐木明先輩、三期生銭場千夏先輩につづきまして、恒例の荷物紹介〜!!
をしようと思っていたので、ちょこちょこ書き溜めていたものの、出すタイミングを失ってしまいました。
今更ですが、後輩の皆様は参考にしてみてください。

やたら長いので区切ります。
まずはバッグ編です。
(一部写真を過去の引率ブログから引用させていただいています)

なんといっても、どのようなバッグを選ぶかで、旅の楽さが大きく変わるものです。
一般的な長期単身貧乏旅行であれば、「バックパッカー」という言葉が定着しているように、荷物は大きなバックパッカーつにおさめ、荷手を空ける、これが鉄則な訳です。
しかし、我々撮影が第一目的のフィールドワーカーには、そうもいかない事情があります。
大量の撮影機材の存在です。

全ての荷物は二種類に分類されます。
すなわち、「預けられるか否か」です。
(フィルム撮影の方は、ここに「X線に通せるか否か」も加わります)
少なくとも飛行機搭乗時には荷物が二つに分かれていなければならない必要があります。

4期生の場合、3つのパターンがありました。



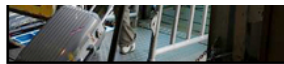
1. 高橋、藤原タイプ。



衣類等は大きめのバックパックに詰めて背負い、機材、PCは機内持ち込み出来るギリギリのサイズのカメラバッグに詰め、キャリーカートで引く。これまでの先輩たちでもイデパン多いかと思いますが、難点は機材をキャリーで運ぶと、機内持ち込みの際「持ち込める持ち込めない」でけっこうもめること、キャリーの取り外しに手間がかかること、階段しかないところではキャリーごと持ち上げて運ばなければならないこと、一見壊れ物に見えないので、常に自分で持つと言いつつ、親切心で手伝ってくれたタクシー、ホテルの人に乱暴に扱われることもあること。
機材を背負える自信の無い人、もめても頑張れる人にオススメ。

2. 山本タイプ。





1の逆で、機材を背負い、衣類等をスーツケースで引く。
機内持込みができ、かつPCが入るギリギリの大きさのリュック型カメラバッグに、機材一式、PCを入れ、背負います。
スーツケースは移動時の長い待ち時間椅子代わりになる、床の汚いトイレで物置になる等、便利です。
また、機材を常に自分で背負っておけるので、他人に乱暴に扱われることもなく安心。またホテルの部屋等で貴重品を管理するのも、スーツケースを貴重品ボックス代わりにできるので便利。
例えば地方への2、3泊の遠出なら、スーツケースを都会に預けて機材と数枚の着替えだけ背負って身軽な旅ができるというメリットもあります。
難点は、階段しかないところではスーツケースを持ち上げて運ばなければならないこと。荷物が減ってもスーツケースの大きさは変わらないこと。ビジュアル的にバックパッカーっぽくないこと
笑
背負っても重くない程度の機材量の人、もめごとが嫌いな人、単独行動の多い人にオススメ。

3.志村タイプ。



かなり大きなバックパックに、機材を含め全ての荷物を入れて一つにまとめ、乗り物等荷物を預ける時のみ機材だけ取り出す方法。
両手が空くのは理想的な旅スタイル。
難点は、かなりの体力、もしくは相当荷物を少なくする努力が必要です。
体力に自信のある人、機動性重視の人、単独行動の多い人、荷物の少ない人にオススメ。

個人的な感想ですが、
機材や荷物が少ないなら3番がオススメです。
3期生までは少数派だったようですが、体力がなく、荷物は多くなりがちな女性ならやっぱり2番がオススメです。

いずれにしても、基本は「荷物は極力少なく！」です。

カテゴリ: 旅の準備

post by 山本 友来 | 日時: 2009.09.15 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

ちょっとそこまで。 > 2009年09月 アーカイブ

09.09.14

フリー期間、終了。179/183 (9月14日)

[Tweet](#)

[Check](#)

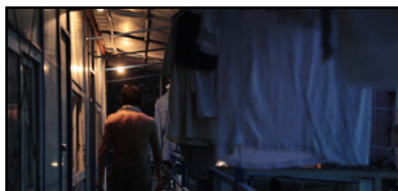
フリー期間なんてもっと焦って焦って精神的にどうしようもない状態に追い込まれるのかと思いきや、なんだかんだで、過ごしてみればイチバンのんびりしていた。
もうずいぶんと、「旅」をしている感覚から離れているようにすら感じる。

意識的に「旅」をしていた5ヶ月間と、「取材」寄りにしてみた最後の3週間の違いなのかもしれない。

今回は撮る対象がハッキリしていたので、これまでのように日中何時間も被写体を求めてうろうろ...とか初めての場所にワクワク...とかいうこともなく、限られた活動範囲と限られた時間帯で、割と落ち着いて過ごしていたからとでも言おうか。

だからといって、決して作品に対する明確な答えが出たわけではないし、反省点は山積みなのだけれど。







明日、中国を立ち、釜山に入ります。
いよいよ帰国です。

カテゴリ: [China](#)

post by 山本 友来 | 日時: 2009.09.14 | [パーマリンク](#) | [コメント \(1\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

ちょっとそこまで。 > 2009年09月 アーカイブ

09.09.13

日帰り香港。168/183(9月3日)

[Tweet](#)

[Check](#)

中国本土のビザなし滞在の日数制限を超えないようにするため、深圳から徒歩で渡れる香港へ一度出境することに。



もう4度目の香港。
「ホーム」な中国の「国内」の移動であるのに、
なぜか、何度来ても「アウェイ感」がビンビンの香港。

言葉が違う。
人が違う。
ルールが違う。
通貨すら違う。
車内ニュースの報道内容も違う。

でも、以前来た時よりは格段に北京語を耳にするようになったし
人民元に対する香港ドルの価値はいつの間にか逆転して安くなっているし
近頃は中国本土に遠慮しがちな香港メディアの報道の自由ランキングも下がっている。

確実に本土に飲み込まれていくんだな、この地も。





カテゴリー: [China](#)
 post by 山本 友来 | 日時: 2009.09.13 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[ちょっとそこまで。 > 2009年09月 アーカイブ](#)

09.09.02

再撮影は中国で。163~/183(8月29日～)

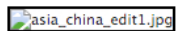
[Tweet](#)

[Check](#)

マレーシア撮影を終えた私は、再撮影期間のメインに選んだ中国へ。
 スクーリングを経て、自分なりに考えたフリー期間の過ごし方は、これまでと撮り方を変えた実験をすること。
 別に今までのが間違ってたのではなくて。
 特定の被写体のプライベートに密着したものをもう少し増やしたいと思ったから。
 それなら私にとっては「ホーム」である中国だろう、と。
 これまでは敢えてひとつの場所に長期間滞在するのではなく、なるべくたくさんの場所を、バラエティに富んだ土地を、と駆け足で弾丸旅行してましたが、フリーでは変えます。
 しばらくは中国で、自分なりに撮りたいものを撮りたいと思います。

いかに同じ場所、同じ人生が繰り返さないかに関わりたいと恐ろしい。

ちなみに、前回、7月中旬からの中国撮影でのルートは、こんなでした。
ラサ→成都→武漢→上海と、西から東の端まではほぼ直線に横断した後、
満洲里→丹東→広州と北の端から南の端まで縦断。



はい、十文字を描いています。

我ながら、たった4週間でよくこれだけ移動したもんだ、と思います。

でも、そうしてみてよかった、と思ってます。

なぜなら、中国という国の大きさをカラダで実感出来たから。

そして、それだけ広大な中国の、気候風土の多様に反比例するような、まさに端っこ中の端っこ
同士の人の話題と主張の、不気味なほどの一様性をこの耳で確かめることが出来たから。

このことは機会があれば掘り下げてみたいですね....。

話がそれましたが、

そういうわけで、今回は割と気心の知れた知人や一度取材させてもらった相手をつてに旅程を組みました。

今は深圳の友人ワンロン宅に滞在しています。

久々にリアルタイムで更新です。

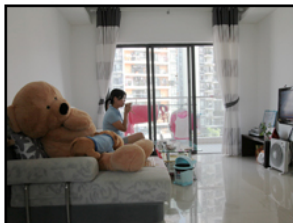


ワンロンは武漢で働いていた時に同じ職場で会計事務をやっていた同い年の女の子で、

最後の一年間はルームメイトでもありました。

一緒に住んでいた頃は独身だった彼女も最近結婚し、今は深圳で一時的に主婦をしながら会計職
を目指して勉強中です。

深圳は経済特区なので独自のルールがあり、会計の資格もこれまで内地でとっていたものとは別
に取り直さなくてはならないからだそうです。



湖北の彼女と広東の旦那さんの結婚は、外国でいえば国際結婚のようなものだ、と彼女は言います。



さて、深圳も香港と隣り合う「辺境」ではありますが、

もともとは小さな漁村だったこの一帯も、鄧小平の改革開放以来、驚くようなスピードで発展
しました。

その勢いまだ衰えず、いまや、かなりの大都会です。

ワンロン夫妻が買ったばかりのマンションも、順調に値上がりしているそう。





鄧小平像。



そんなこんなで楽しくやっています。

カテゴリ : [China](#)

post by 山本 友来 | 日時: 2009.09.02 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)